

植 調 協 会 だ よ り

◎植調研究所報告

平成15年度水稻用除草剤沖縄試験の実施状況

1. 目 的

本年試験が計画されている一部的水稲用新規除草剤について、適用性試験の実施に先立ち、除草効果および薬害、さらには製剤間の比較検討を行うことによって、薬剤の特性を把握し、第二次適用性試験が効率的に進められるための知見を得ることを目的とする。

また、現地圃場において、既存薬剤のジャンボ剤化に伴う製剤間の比較検討ならびに実規模圃場において実用散布方法について検討する。

2. 耕種概要

- (1) 試験場所：沖縄県名護市為又（沖縄県農業試験場名護支場内）
- (2) 試験期間：平成16年2月～3月
- (3) 栽培法：稚苗移植栽培
- (4) 試験規模
 - ① 粒剤、フロアブル：1区0.8㎡（0.8×1m）2区制
 - ② ジャンボ剤：1区14㎡（2×7m）2区制
- (5) 土壌条件

土性	腐植含量	pH(H ₂ O)	塩基置換容量	減水深
壤土	1.66%	6.5	6.8meq/100g	0.5cm 以下/日

(6) 水稻関係

- 1) 植 代：2月3日（但し、ジャンボ剤圃場は2月2日）
 - 2) 移 植：2月9日（但し、－4処理区については2月13日移植）
 - ① 粒剤、乳剤、フロアブル等：1株2本、1区15株手植え
 - ② ジャンボ剤：機械移植
 - 3) 品 種：ひとめぼれ
- 移植苗：葉齢2.0L（草丈12.1cm 地上部乾物率16.3%）

(7) 雑草播種：2月7日

試験圃場での自然発生はホタルイが主であるが、その他ノビエ、ホタルイ種子を土壌表面に播種し、タマガヤツリ、コナギ、一年生広葉雑草種子およびマツバの混入土を播き込み、ミズガヤツリ、ウリカワの塊茎を区当たり各5個植え付けた。

(8) 薬剤処理

粒剤、粒状剤：均一に手まき
 フロアブル：ピペットを用いて全面に滴下
 ジャンボ剤：試験区短辺部脇に小区画用の薬剤を投入

(9) 水管理 移植後より3～4cm湛水で管理および薬剤処理（ジャンボ剤処理は5cm程度）を行った。

(10) 施肥 N-P-K 3.0-3.0-3.0kg/10a

(11) 薬剤処理時の雑草および水稻の生育状態

処理時期	月日	ノビエ	タマガヤツリ	コナギ	他広葉	マツハイ	ホタルイ	ミスガヤツリ	ウリカワ	藻類*	水稻
-4、+0	2/9	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	0%	2.0L
+1	10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.0L
+3	12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.0L
+5	14	発生始	〃	〃	〃	〃	発生始	発生始	発生始	〃	2.0L
ノビエ 1.0L(+12)	21	～1.0L	発生始	発生始	発生始	発生始	～1.0L	～1.0L	線形葉	5%	2.4L
ノビエ 1.5L(+15)	24	～1.5L	～1.0L	〃	〃	〃	～1.5L	～1.5L	〃	10%	3.0L
ノビエ 2.0L(+18)	27	～2.0L	～1.5L	～1.0L	〃	〃	～2.0L	～2.5L	～1.0L	15%	3.7L
ノビエ 2.5L(+21)	3/1	～2.5L	～2.0L	～1.5L	〃	増殖期	～2.5L	～3.0L	～1.5L	20%	4.3L
ノビエ 3.0L(+25)	5	～3.0L	～2.5L	～2.0L	～1 対	〃	～3.0L	～4.0L	～2.0L	30%	4.6L

*コナギ、広葉の葉齢は子葉を含めず本葉第1葉から数えた。

藻類については被度を絶対値で表した。

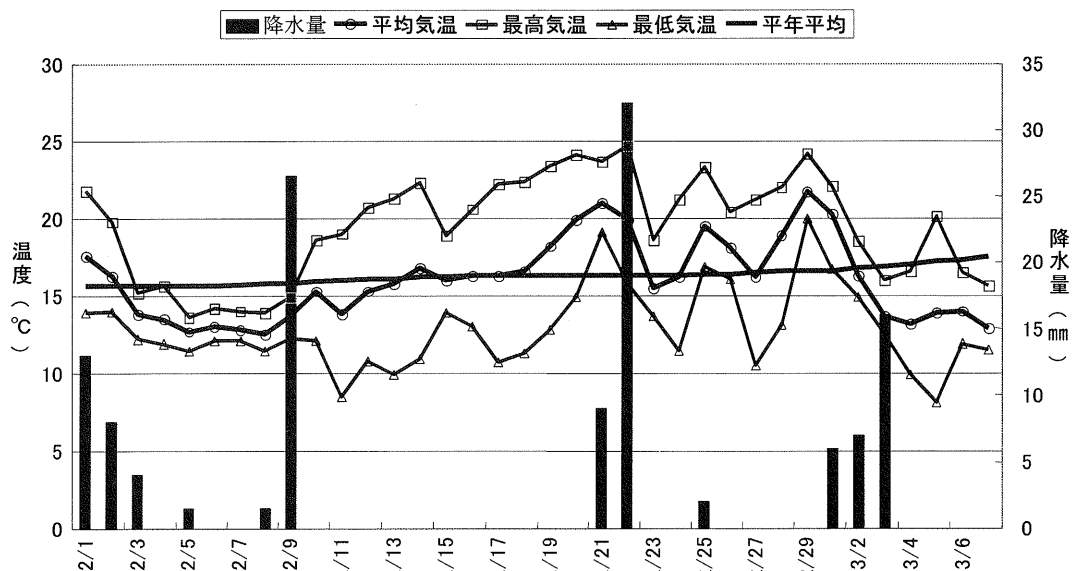
3. 試験経過および気象概況

本年度はジャンボ剤の14㎡の試験区とその他薬剤の枠試験を場内の2筆の圃場を使用して実施している。

水稻移植はいずれも2月9日に行った。その日は雨で風も強く、低温で最悪なコンディションの中での作業となった。しかし、翌日から天候は回復し、2月中は平年並みかやや高めの気温で推移した。ノビエ1L期処理翌日に33mm、ノビエ2.5L期処理後に25mm程度の降雨があり深水で経過したが、オーバーフロー等はなかった。

雑草の発生および生育については、ウリカワの発生がやや遅れた他は、ほぼ平年並みであった。

気 象 表



省カタイプの
高性能一発処理除草剤
シリーズ

問題雑草を一掃!!



●使用前にはラベルをよく読んでください。
●ラベルの記載以外には使用しないでください。
●本剤は小児の手が届くところには置かないでください。
●空容器は密栓に蓋をし、農機に影響のないように適切に処理してください。



 **日本農薬株式会社**
東京都中央区日本橋1丁目2番5号
ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>

最新 除草剤・生育調節剤解説2002年版

企画・編集／財団法人 日本植物調節剤研究協会
B5版、208ページ
定価（本体価格5,000円＋消費税）

この2002年版には水田除草剤24剤、畑地除草剤2剤を収録しました。このほか、2000年版（1,000円）、1999年版（5,000円）、1998年版（5,000円）も発売中。（価格はいずれも本体価格）

全国農村教育協会

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
TEL03-3833-1821 FAX03-3833-1665

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03)3832-4188 (代)
FAX (03)3833-1807

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 (03)3833-1821 (代)
FAX (03)3833-1665
E-mail: hon@zennokyo.co.jp

平成16年3月発行 定価525円（本体500円＋消費税25円）
植調第37巻第12号 (送料 270円)

印刷所 新成印刷(有)